

平成30年度スポーツ庁委託事業

「障害者スポーツ推進プロジェクト（地域の課題に対応した障害者スポーツの実施環境の整備事業）成果報告書

たまの版CCRsea 構想実現に向けた障害者スポーツ推進事業

実施報告書

平成31年3月

玉野市教育委員会

本報告書は、スポーツ庁の委託事業として、玉野市教育委員会が実施した平成30年度「障害者スポーツ推進プロジェクト（地域の課題に対応した障害者スポーツの実施環境の整備事業）」の成果を取りまとめたものです。

従って、本報告書の複製、転載、引用等にはスポーツ庁の承認手続きが必要です。

はじめに

玉野市では、若者から高齢者、障害者、移住者など全ての市民が活躍でき、共生社会の実現を目指す「生涯活躍のまち構想（たまの版C C R sea 構想（※平成 29 年 3 月に基本構想策定））」を掲げており、誰もが安心して暮らせる地域共生社会の推進の取組の中で、スポーツ活動等を通じて障害者の社会参画の場の創出や障害の有無に関わらず地域で活躍できる場の提供等が主要事項の 1 つとなっています。

しかしながら、障害者スポーツの取組に関しては、例えば平成 29 年度は、初めて障害者スポーツの大会を誘致した民間スポーツ団体がありましたが、市（市立体育施設等）の関わり方や市民一般への普及といった観点から課題が残ったり、たまの版C C R sea を掲げつつも市立体育施設での障害者スポーツに関するプログラムの提供や市立体育施設と障害者福祉施設との連携等について課題を感じていました。

玉野市はスポーツが盛んであり、多くの市民がスポーツに関心を持っており、たまの版C C R sea 構想で掲げる共生社会の理念を全市に広げるには、スポーツを活用することが最も効率的・効果的であると考え、「たまの版C C R sea 構想」の実現のため、①市民が障害者スポーツ活動を通じて障害者理解（心のバリアフリー）を深めることができるための普及プログラムの推進、とともに、②市のスポーツ拠点である市立体育施設が障害者福祉団体等と連携し、障害者が身近にスポーツ活動に取り組むことができる環境の充実、を車の両輪として総合的に取り組んでいくこととしました。

平成 30 年度は、「たまの版C C R sea 構想実現に向けた障害者スポーツ推進実行委員会」を教育委員会が市長部局と協力して設置し、関係団体と協議し、実行委による事業方針の決定や試行事業の内容の協議、市立体育施設による試行事業の具体化、実行委による試行事業結果の検証・報告等を実施し、次年度以降の上記①及び②の取組の推進・充実につなげるとともに、「たまの版C C R sea 構想」の実現に寄与することを目指しました。

平成 30 年度は、以下の 4 種の観点から取組を推進しました。

①市立体育施設での障害者スポーツ普及プログラム

障害の有無に関わらず気軽に楽しめるスポーツを通じて、市民の障害者理解を深める普及プログラムや、障害者が参加可能なスポーツプログラムを開発・試行実施し、市立体育施設の障害者スポーツ振興拠点機能を高める。

②障害者福祉施設等への訪問型プログラム

障害者福祉施設等と連携し、日頃運動の機会が少ない障害者が気軽に楽し

める運動プログラムを訪問型で実施することで、スポーツへの関心を高めるとともに、日常の運動機会の増加やスポーツ施設等におけるプログラムへの参加につなげるなど、スポーツを通じた健康づくり、社会参加につなげる。

③宇野港をブラインドサッカーの拠点とするべく、民間体育施設や民間スポーツ競技団体と連携した障害者スポーツ普及プログラム

民間体育施設や民間スポーツ競技団体等と協働して、ブラインドサッカーの取組が宇野港で定着するよう、普及プログラムを実施することにより、市立体育施設と民間体育施設・民間スポーツ競技団体等との連携強化を図る。

④地域での障害者スポーツ普及のための学校体育館を活用したプログラム

市立体育施設のない地域においては、学校体育館が地域のスポーツ拠点であることから、モデル的に障害者スポーツ普及地区を選定し、学校体育館において、障害者スポーツの選手・指導者等も招き、子供から大人まで誰もが楽しめる障害者スポーツを通じて、障害者スポーツの理解・関心を高めるとともに、共生社会の意識を高める。

①②④の試行プログラムは2回、③は1回（ただしブラインドサッカーの取組は2回目に①とまとめて実施）実施し、合計で275名の参加がありました。②のプログラムでは障害当事者の参加がメインであったり、①のプログラムでも一部ではありましたが、障害当事者の方の参加もありました。また、プログラムの中では、パラリンピアンや障害者スポーツ指導員の資格を持つ方による指導もあり、パラスポーツに触れるだけではなく、競技の魅力を知ったり、共生社会について考える機会となりました。

特に今年度成果があった取組としては、

- ・市内部のスポーツ担当部局と健康福祉部局の連携はもちろんのこと、市立体育施設と障害福祉施設・障害者スポーツ関係者の連携が予想以上に進み、スムーズに試行プログラムの開催に至ったことや、障害当事者のアンケート結果からは、普段運動をする機会がほとんどないと回答する障害福祉施設通所者が多かった一方で、月1回以上来て欲しいというように、運動機会を求めている様子も伺え、ニーズの把握が行えたこと。
- ・市立体育施設のスタッフも試行プログラムの中で関わり方やプログラムの内容の工夫等の研究を重ねており、1回目を踏まえた2回目のプログラムとなっており、試行プログラムを通じてステップアップが見られたこと。
- ・市立体育施設や民間体育施設、市立体育施設から遠い地域の学校体育施設を活用したプログラムでは、地域の子どもや保護者、高齢者や、競技団体関係者等が参加し、アンケート結果からは、これまであまり身近ではなかったパ

ラスポーツへの関心が高まるとともに、障害者の理解・共生社会の理念について参加者それぞれが考える機会になったことが伺えたこと。また、本取組については、地元紙にも3回取り上げられ、また、本事業外でも学校から総合学習の時間に障害者スポーツを実施したいとの問い合わせが市立体育施設にあるなど、市内の関心が高まり始めたこと。

などが挙げられます

次年度も、今年度の取組を踏まえ、スポーツを活用した共生社会の実現に向けた取組を推進していく予定です。

1. 試行プログラムの概要

試行プログラムは以下の日程・場所で実施しました。

①市立体育施設での障害者スポーツ普及プログラム

- 1回目 平成30年12月22日 レクレセンター体育館
- 2回目 平成31年 2月11日 レクレセンター体育館

②障害者福祉施設等への訪問型プログラム

- 1回目 平成30年12月 6日 すこやかセンターやまももホール
- 2回目 平成31年 3月 5日 すこやかセンターやまももホール

③宇野港をブラインドサッカーの拠点とするべく、民間体育施設や民間スポーツ競技団体と連携した障害者スポーツ普及プログラム

- 1回目 平成31年 1月19日 宇野港フットサルコート

④地域での障害者スポーツ普及のための学校体育館を活用したプログラム

- 1回目 平成31年 1月26日 胸上小学校体育館
- 2回目 平成31年 2月20日 日比小学校体育館

それぞれの試行プログラムの概要やスタッフの感想、参加者のアンケート結果の概要は次ページからを参照してください。

玉野市障害者スポーツ推進プロジェクト

「障害者施設訪問型プログラム」 報告書

1. 趣旨

障害者施設等と連携し、日頃運動の機会が少ない障害者が気軽に楽しめる運動プログラムを訪問型で実施することで、スポーツへの関心を高めるとともに、日常の運動機会の増加やスポーツ施設等におけるプログラムの参加につなげるなど、スポーツを通じた健康づくり、社会参加につなげる。

2. 実施日

2018 年 12 月 4 日（火） 13：00～14：00

3. 場所

すこやかセンター やまももホール

4. 内容

リズム体操、ボッチャ体験

5. 参加者人数

20 名

6. 講師紹介

玉野スポーツネットワーク JV スタッフ（今井、岡野、大西）

7. 「障害者施設訪問型プログラム」の様子

【スタッフ挨拶、自己紹介】

○担当スタッフの挨拶、自己紹介、プログラム説明などを行いました。

【リズム体操】



○音楽に合わせて簡単な体操や振りつけダンスを行いました。手や肩を動かすことで、肩こりや体が楽になったと言われていた方もいました。身体だけでなく、頭の体操を取り入れることで、脳の活性化も意識した内容としました。振りつけダンスは、簡単な振りつけで、365 歩のマーチやダンシングヒーローの音楽とともに楽しく体を動かしました。

【ボッチャ体験】



ボッチャ体験

【挨拶】



教育長よりご挨拶

○全員で円になり、ボッチャの体験を行いました。今回は中心のジャックボールにどれだけ近づけられるかというルールにし、初めて行うボッチを気軽に楽しんでいただけるような内容としました。初めてのボッチャに参加者も大変喜ばれていました。

8. スタッフの感想、課題、次回に向けての取り組み

「障害者施設訪問型プログラム」では、普段運動機会の少ない障害者に運動を通して心や体をリフレッシュして頂く機会となり、好評のうち無事イベントを終えることができました。障害者に対しての運動プログラムの実施は初めてだったので、プログラム内容について悩みましたが、一緒に体を動かすことで障害の有無を問わず楽しめると感じました。障害者施設のスタッフの皆さんからも、所生さんたちが笑顔で楽しんでいる姿が印象的だった、今後も定期的に行って欲しいという声を頂きました。今回の課題としては、参加者の障害がどの程度なのかという把握ができておらず、主に上半身を使う運動となってしまったので、次回は下半身や全身を動かせるような内容にしたいと思います。今回のプログラム実施をきっかけに運動機会が増え、日頃の運動意識や体育施設のトレーニングジム利用などへの一歩へつながっていけばよいと思います。

玉野市障害者スポーツ推進プロジェクト

「障害者スポーツ体験イベント」 報告書

1. 趣旨

障害の有無に関わらず気軽に楽しめるスポーツを通じて、市民の障害者理解を深める普及プログラムや、障害者が参加可能なスポーツプログラムを開発・試行し、市立体育施設の障害者スポーツ振興拠点機能を高める。

2. 実施日

2018年12月22日（土） 10:00～12:00

3. 場所

玉野市総合体育館（アリーナ）

4. 内容

車いすバスケット、ボッチャ、フライングディスク、スラローム

5. 参加者人数

38名

6. 講師紹介

シドニーパラリンピック車いすバスケットボール日本代表選手 根木慎志さん

7. 「障害者スポーツ体験会」の様子

【根木慎志さん紹介、ご挨拶】

【根木慎志さんの講演】



○パワーポイントを使い車いすバスケットや自身の障害について、講演してくださいました。色々な芸能人の方との交流などもお話いただき、子どもたちも楽しんで講演を聞いていました。

【根木慎志さんのプレーを実際に見てみよう】



車いすバスケット



ポッチャ



フライングディスク



スラローム

○根木慎志さんによるデモンストレーション。車いすバスケット、フライングディスク、ポッチャ、車いすスラロームのデモンストレーションを行いながら、競技の説明をしていただきました。フライングディスクの初代チャンピオンである根木さんプレーを間近で見ることができ、子どもたちとのポッチャ対決では根木さんに勝利し、会場が盛り上がりました。

【車いすバスケット専用の車いすを体験してみよう】



○車いすバスケットを実施する前に、車いすバスケット専用車いすの操作方法やコツなどを教えていただきました。参加者は初めての車いすに戸惑いつつも、楽しんでいました。

【車いすバスケット、ポッチャ、フライングディスク、スラローム体験】



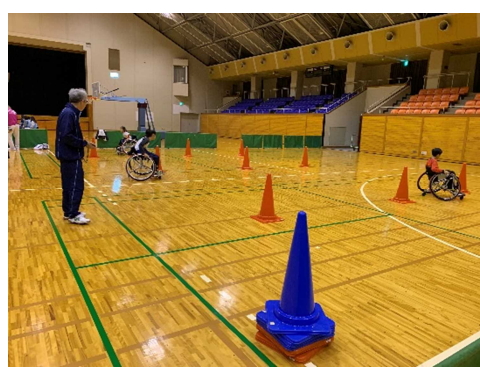
車いすバスケット



ポッチャ



フライングディスク



車いすスラローム

○車いすバスケットは車いすの操作に苦戦しながらも、楽しみながらチームワークの大切さを学べました。実際に体験することで、パラスポーツの困難さや選手のすごさを実感できました。フライングディスクは5m、7mの線から一人10枚のディスクを投げ、内何枚が枠の中を通るか挑戦しました。ポッチャは、既定のコートより小さめに設定し、初めての方でも楽しめるようにしました。分かりやすく盛り上がるゲーム性で大人から子供まで楽しめ、何度も挑戦する方もいました。車いすスラロームでは、並べられたコーンを避けながら車いすを操作し、何秒でゴールできるかを競いました。根木さんの記録を目指し、皆さん果敢に挑戦していました。

【根木慎志さんに質問タイム】



8. スタッフの感想、課題、次回に向けての取り組み

「障害者スポーツ体験イベント」では、様々なパラスポーツを体験し身近に感じることができる、よいイベントとなりました。根木さんの講演では、パラスポーツの内容だけでなく、障害者の立場やそれに対する健常者の在り方を子どもたちにもわかりやすく教えて下さり、子どもたちの楽しかったという感想とともに、今後障害を持っている方が困っていたら助けたいという感想に、今後の障害者に対する意識が変わったように感じました。今回のイベントは、参加者に障害者スポーツを楽しんでいただくだけでなく、スタッフの研修として今後のイベント開催時のアドバイスなどもしていただきました。

イベント開催までの時間で、コート of 広さやルールを工夫することで、初めての方でも楽しめるような内容を教えてくださり、有意義な時間となりました。その際の課題として、コート of 大きさやルールに関する細かいレイアウトなどの準備が不十分となってしまうことが、当日の会場準備に時間を要したことです。次回はこの反省を活かし、イベントが進行しやすい内容やレイアウトを考え、イベント当日の会場図などを相談して行いたいと思います。

玉野市障害者スポーツ推進プロジェクト

「ブラインドサッカー体験会」 報告書

1. 趣旨

民間体育施設や民間スポーツ競技団体等と協働して、ブラインドサッカーの取組みが宇野港で定着するよう、普及プログラムを実施することにより、市立体育施設と民間体育施設・民間スポーツ競技団体と連携強化を図る。

2. 実施日

2019年1月19日（土） 10:00～12:00

3. 場所

宇野港フットサルコート

4. 内容

ブラインドサッカー体験

5. 参加者人数

44名

6. 講師紹介

ブラインドサッカー日本代表 加藤健人さん（アシスタント：小島さん）

7. 「ブラインドサッカー体験会」の様子

【加藤健人さん紹介、ご挨拶】



加藤健人さん紹介



挨拶、ブラインドサッカーについてなど

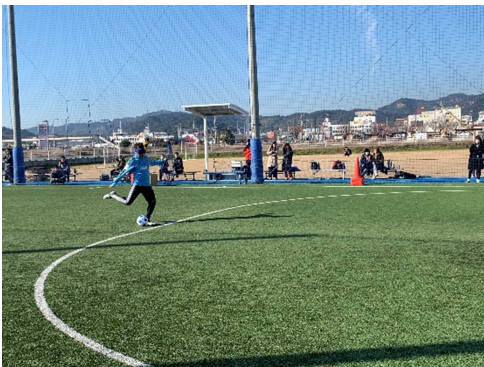
【加藤健人さんのプレーを実際に見てみよう】



アイマスクをつけた状態でのパス



子どもたちの声を頼りにドリブル



シュート

○加藤健人さんによるデモンストレーション。子どもたちが一緒に体感できたドリブルシーンでは、声の大切さがより分かりやすく伝わっており、迫力のあるシュートには歓声が上がっていました。

【視覚障害者の気持ちを体験してみよう】



2人組になり、1人がアイマスクをつけた状態での準備体操

○加藤健人さんが指示した動き（ストレッチ）を見て、見えている人がどのようにして見えていない人に声だけで正しい動きを伝えればよいのか苦戦していました。



アイマスクを付けた状態で仲間の所まで歩く



ボールを手で拾い、仲間の所まで届ける

○仲間の声を頼りに歩いたり、ボールを届けたりしました。目の見えない環境に怖さを感じながらも、楽しく体験していました。繰り返し行うことで、目の見えている人がより具体的な指示が出せるようになり、スムーズに動いていました。動きに慣れたらチーム戦で、5分間で何回ボール渡しができるかを対決しました。

【ブラインドサッカー体験】

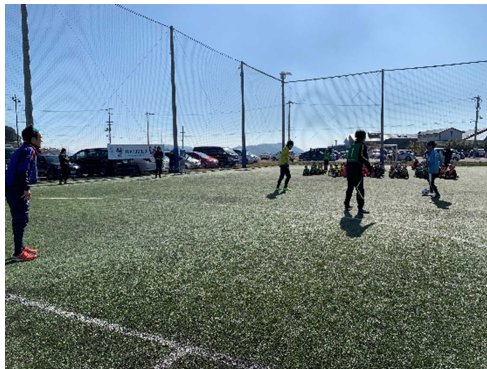


コーンの間にボールを蹴る

○ボールがある位置をしっかりと把握し、手を正面に伸ばすことにより正確に行えるというアドバイスを受け、実施しました。チーム戦で、5分間で何回コーンの間を通せるか対決しました。



○少し距離をとった応用編も行いました。



加藤健人さん vs サッカーチーム指導者

集合写真

○加藤健人さんとサッカー指導者2名とのミニゲームを行いました。相手が見えていて、
るかのようなドリブルやシュートに参加者からは歓声が上がっていました。

8. スタッフの感想、課題、次回に向けての取り組み

「ブラインドサッカー体験会」では、普段体験することのできない障害者スポーツに触れ、興味・関心を高められたイベントとなり、好評のうち無事イベントを終えることができました。チームで参加していた指導者が、普段のサッカーでは声あまり出ず消極的な選手が、ブラインドサッカーを通して声を出し、生き生きしている様子が印象的だったと言われていました。また、加藤健人さんに同伴してくださっていた小島さんから、会社の社員教育としてブラインドサッカーを実施する場合もあると伺い、スポーツ以外でも様々な影響を与えてくれるのだと感じました。今回イベントの課題としては、加藤健人さんに関して参加者は全盲であるということがあまり把握できておらず、障害について知っていただけるような案内がもう少しできれば障害者との関わり方や考え方につながったと思います。また、今後のイベント開催については、場所などの影響もあり講師の確保が難しく継続的な開催には、岡山県チーム「デビルバスターズ」との連携が必要不可欠だと感じました。玉野市全体で障害者スポーツを推進していけるよう連携していければと思います。イベント内容は子供から大人まで幅広く楽しめるもので、今後の障害者スポーツ推進イベントに活かしていきます。

玉野市障害者スポーツ推進プロジェクト

「車いすバスケット体験会」 報告書

1. 趣旨

市立体育施設のない地域においてモデル的に障害者スポーツ普及地区を選定し、学校体育館において、障害者スポーツの選手・指導者を招き、子どもから大人まで誰もが楽しめる障害者スポーツを通じて障害者スポーツに対する興味・関心を高め、玉野市の障害者スポーツを推進する。

2. 実施日

2019年1月26日（土） 10:00～12:00

3. 場所

胸上小学校 体育館

4. 内容

車いすバスケット体験

5. 参加者人数

40名

6. 講師紹介

アメリカ、スペイン、ドイツ車いすバスケットプロリーグで活躍された堀江航さん
2018平昌パラアイスホッケー日本代表、ブラジリアン柔術やソフトボールなどマルチプレーヤー

7. 「車いすバスケット体験会」の様子

【堀江航さん紹介、ご挨拶】



堀江さん紹介



自己紹介、車いすバスケットのルール説明

○プロジェクターを使い自己紹介を兼ねて障害者スポーツについて話して下さいました。小さいころから大学迄サッカーをしていたが事故に合い足を切断したこと、その後アメリカ、スペイン、ドイツでの車椅子バスケットで活躍されていた事、2018年平昌パラリンピックアイスホッケー日本代表で出場した事、ブラジリアン柔術、ソフトボールや現在はカーン競技に力を入れている事、車いすバスケットのルールや障害に応じた持ち点など動画を交えてご講演頂きました。

【堀江航さんのデモンストレーション】



車いすの説明



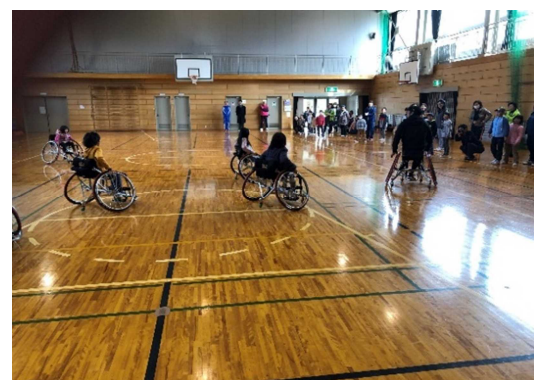
チェアスキルのデモンストレーション



試乗体験

○堀江さんによるチェアスキルのデモンストレーション。チェアスキル、車いす乗り降り際の注意点、タイヤの握り方、止まり方、曲がり方など丁寧にご説明頂きました。その後一人ずつ実際に車いすに試乗しました。

【堀江さんと車いす鬼ごっこ】



○最初は堀江さんが鬼となり、子どもたちがタッチされないように逃げましたが、すぐに捕まってしまう。次は子どもたちで協力して堀江さんを捕まえにいくも捕まえられず、最後は堀江さんが後進のみで逃げるも捕まえることができませんでした。参加者は堀江さんのチェアスキルに圧倒された様子でした。

【ボールを使いドリブル練習】



ドリブルの説明



ドリブル練習

○2回タイヤを漕ぎ1回ボールを床に落としドリブルをする練習を行いました。体の小さい子どもは車いすにボールが当たってしまいドリブルをするのに苦戦していましたが、一生懸命に取り組んでいました。

【車椅子バスケット体験】



チームに分かれて試合



○車いすに座ったままだとボールがリングまで届かないため、ゴール前にスタッフを配置しスタッフにボールが渡れば1点、通常のゴールに入れば2点というルールにし、加えてトラベリングは気にせず試合を行いました。段々と車いすの操作が上手くなり、シュートが入った時の歓声も大きく上がっていました。



堀江航さんへ質問コーナー



集合写真

○質問の中にはチェアスキルの上達する練習方法や、車いすの値段の質問がありました。質問者には堀江さんのサイン色紙をプレゼントしました。

8. スタッフの感想、課題、次回に向けての取り組み

普段体験することのできない車いすバスケットを体験・見学し想像以上に楽しい障害者スポーツイベントとなりました。参加者全員がスポーツ用車いすに乗るのが初めてで、スピード感やターンの早くて軽い感覚に驚いていました。また、簡単に思えた直進でも左右の力が違うと勝手に斜めに進むなど、車いす操作の難しさを体感され、特にドリブルの際は戸惑いながら体験されている方が多くみられました。なかなか思うように操作できず、大変そうでしたが笑顔が絶えず皆さん楽しんで取り組まれていました。車いすバスケットを通して、スポーツを楽しむ気持ちには一般的に言う健常者や障害者の間に何も差がないと感じました。また、堀江さんの講演やプレーを通して、競技ルールを少し変えることで、障害者も同様に楽しめるスポーツがあることや、努力と想いによってできなかったことができたり夢が叶うというお話から、子どもたちに努力の大切さや夢を持つことの素晴らしさを伝えて頂きました。前回の障害者スポーツイベントの際、選手に際しての質問が参加者からなかったことが課題としてあり、今回は堀江さんのサイン色紙を用意し質問した方へのプレゼントとして用意し、選手への質問を促しました。選手への質問は殺到し、サインをもらった子供たちは大変喜んでいました。また、車いすの基本となる乗り降りや、こぎ方、注意点などを前回は細かく教えていただく時間が少なかった為、今回はしっかりと時間を設けて教えて頂きました。加えて、普段障害者と関わる機会が少なく、身近に感じられない子供たちの為、堀江選手に義足を取っていただき、子どもたちに見てもらうことで、今後の障害者に対する考えや関心につながったと思います。今回の課題としては、車いすが参加者20名に対して、全6台の手配となってしまった為、正式な5対5の試合ができませんでした。今回だけでなく、障害者スポーツに関する用具については課題があると思うので、継続的な開催には大きな課題と言えます。しかし、その中でも協力・工夫して障害者スポーツ普及ができるよう、スタッフの障害者スポーツに関する知識や実施方法を考えていきます。

玉野市障害者スポーツ推進プロジェクト

「障害者スポーツ体験会」 報告書

1. 趣旨

障害の有無に関わらず気軽に楽しめるスポーツを通じて、市民の障害者理解を深める普及プログラムや、障害者が参加可能なスポーツプログラムを開発・試行し、市立体育施設の障害者スポーツ振興拠点機能を高める。

2. 実施日

2019年2月11日（月・祝） 13:30～15:30

3. 場所

玉野市総合体育館 アリーナ

4. 内容

フライングディスク、ボッチャ、視覚障害者サッカー、車いす体験

5. 参加者人数

74名（講演会のみ参加者含む）

6. 講師紹介

岡山県障害者フライングディスク協会 理事 吉田先生、副会長 姫野先生
手話通訳 山本さん、大平さん

7. 「障害者スポーツ講演会」の様子

【吉田先生・姫野先生紹介、ご挨拶】

【吉田先生 講演 手話通訳付き】



講演会の様子

○障害者や障害者スポーツについて、パワーポイントを用いて講演してくださいました。パラリンピックやパラリンピアンに対し、興味・関心が高まった時間となりました。

8. 「障害者スポーツ体験会」の様子

【フライングディスクを実際に見てみよう】



姫野先生、吉田先生によるデモンストレーション

○フライングディスクの様々な投げ方を実際に見せていただきました。通常の投げ方（バックハンド）の他に、縦投げやカーブ、バウンドなどの技術を披露してくださり、参加者のフライングディスクへの関心が一気に高まりました。

【フライングディスクを体験してみよう】



2人組になり、対面での練習



アキュラシーに挑戦

○正しいフライングディスクの投げ方から丁寧に教えてくださいました。自分のお腹の位置から相手のお腹の位置へ投げるように意識することでまっすぐ投げられるというコツを教えてください、参加者は先生のアドバイスを基に楽しんでいました。

【ボッチャ体験】



○吉田先生と玉野スポーツネットワーク JV スタッフでのデモンストレーションやルール説明等を行った後、実際にボッチャ体験を行いました。シンプルなルールで、大人から子供まで楽しめる内容に、皆さん笑顔で取り組まれていました。

【視覚障害者サッカー体験】



ボールを手で拾い仲間の所まで届ける

○仲間の声を頼りに歩いたり、ボールを届けたりしました。また、コーンの間にボールを蹴る体験も行いました。ボールがある位置をしっかりと把握し、手を正面に伸ばすことにより正確に行えるというアドバイスを基に体験し、視覚障害者の大変さを痛感していました。

【車いすスラローム体験】



車いすスラローム

○車いすスラローム体験では、コーンで示されたコースをどれだけ速くゴールできるかという内容で行い、車いすの操作に苦戦しながらも一生懸命に車いすを漕いでいました。

9. スタッフの感想、課題、次回に向けての取り組み

子どもから大人まで、幅広い年齢層の方が様々な障害者スポーツに触れられ、楽しめる良いイベントとなりました。今回は3グループに分かれて、全4種（フライングディスク、ボッチャ、視覚障害者サッカー、車いすスラローム）それぞれ全てを全員が体験

できるという内容でイベントを行いました。時間は限られていたものの、短時間で様々な種目が体験でき、内容に飽きず、楽しんでいただきました。今回は、障害者の方もご家族と一緒に何名かご参加いただいております、慣れない動きにも果敢に挑戦し健常者の皆さんと一緒に楽しんでいました。イベント内容は、これまでの反省等を活かし、少人数で丁寧な基本説明（車いすの乗り方、フライングディスクの投げ方など）と簡単で楽しめる内容をスタッフで考え、参加者の方からはとても良い内容で楽しかったとの声をいただきました。今後は、健常者の方から障害者の方まで気軽に参加していただける内容と案内を行っていただければと思います。また、これまでのイベントの反省点にもあったスタッフ研修については、今回はイベント前に吉田先生、姫野先生よりフライングディスクの研修を行っていただき、基本の動作から様々な技術、指導時のコツ（投げるときは低めに、自分のお腹から相手のお腹へ投げるように意識する）などを教えていただきました。イベント前に行っていただけたことで、実際のイベント時に参加者へのスムーズな対応や説明につながり、とても有意義な時間となりました。今後のイベント開催については、今までよりも提供できる内容や種目を増やし玉野市民への障害者スポーツ普及へ取り組んでいければと思います。そのためには、スタッフの研修や経験値向上はもちろん、地域の施設や人々とのかかわりを大切に連携していく必要があります。課題でもある障害者の皆さんに施設へ来て、イベントに参加いただけるようにアウトリーチ活動なども継続して行っていければと思います。

玉野市障害者スポーツ推進プロジェクト

「車いすバスケット体験会」 報告書

1. 趣旨

学校体育館において、障害者スポーツの選手・指導者を招き、子どもから大人まで誰もが楽しめる障害者スポーツを通じて障害者スポーツに対する興味・関心を高め、玉野市の障害者スポーツを推進する。

2. 実施日

2019年2月20日（水） 15:00～16:00

3. 場所

日比小学校 体育館

4. 内容

車いすバスケット体験

5. 参加者人数

43名 学童の生徒 1年生から6年生

6. 講師紹介

玉野スポーツネットワーク J V 今井、岡野

7. 「車いすバスケット体験会」の様子

【挨拶及びスタッフ紹介】



スタッフ紹介、車いすバスケットのルール説明

○指導員の紹介、オリンピック、パラリンピック、バスケットボールや車椅子の経験等の質問を交え車いすバスケットのルール説明を行いました。5対5で試合を行いダブルドリブルはなく、トラベリングは車椅子を漕いだ回数、障害に応じた持ち点があり1.0～4.5

点点数がつけられ、チームの持ち点は14点までという車いすバスケの主な説明を行いました。

【車いすの説明】



【チェアスキル】



試乗体験

○普通の車椅子と車椅子バスケ用の車椅子を並べて置き比較。違いを見つけて頂きました。タイヤがハの字で機動力が高いこと、後ろに倒れないようにタイヤの数が多いことやタイヤの付いている位置の違いを確認後、漕ぎ方、止まり方、曲がり方、乗り降りの際の注意点を説明。一度デモンストレーションを行い、一人ずつ試乗しました。

【車椅子バスケ体験】



ボールを持つでのチェアスキル

○ボールを使いドリブルの練習。二回漕いで一回ドリブル。体の小さい低学年はボール

を使わずにマーカーを増やし車椅子を漕ぎながら曲がる練習。体の小さい低学年は持ったまま進み、高学年はドリブルに挑戦していました。高学年の中にはタイヤを使いボールを拾う技に挑戦している子の姿も見られました。

【試合】



○時間の関係でチェアスキルの練習をした各列1名をじゃんけんで選出し、代表者で練習内容を活かして試合を実施。座位でのシュートではボールがリングまで届かないため、ゴール前に補助の先生を配置し先生にボールが渡れば1点、通常のゴールに入れば2点というルールに、加えてトラベリングは気にせず試合を行いました。またサイドライン、エンドラインをより出たボールは声の大きい人に渡すルールで行いました。チェアスキルの練習の成果を発揮し操作が上手くでき、シュートが入った時は一段と歓声も大きく上がっていました。

8. スタッフの感想、課題、次回に向けての取り組み

今回は1年生から6年生迄幅広い対象に加えて43名と参加者の多い体験会でした。普段体験することのできない車いすバスケの体験のはずでしたが、市立体育施設で実施した体験会に参加したという生徒も数名おり玉野市に障害者スポーツ事業が浸透し始めていることを実感できました。

チェアスキルの際、三角コーンを回る時は大きく・ゆっくり回るようにアドバイスしましたがコーンにタイヤを乗り上げる生徒が多々見られ、スポーツ用の車椅子でのスピード、ターン等の機動力の高さを体験して頂けたのではないかと思います。

またドリブル練習の際、1、2年生はチェアスキルの様子からボールを扱う事は困難と判断し内容を変更しボールを使わず、マーカーを2個増やしスラロームの要素を取り入れたチェアスキル、高学年は予定通りボールを使用しての練習を行い代表者で試合を行いました。

課題としては、25名程度を想定していた人数が当日になり大幅に増え代表者のみでしか試合ができなかったことや待ち時間が長くなってしまった事です。

今振り返れば、椅子を利用して座位でのドリブル、パス、シュート体験など工夫出来る事はあったと思います。やはり経験と知識を増やすためにも資格の取得が必要であると思いました。また小学校1、2年生向けの比較的体格の小さい子向けの車椅子を用意できると尚良いと思いました。

障害者スポーツに触れる機会はなかなかありませんが、今後は障害者スポーツも指導できる指導員になれるように資格取得や講習会、イベントに積極的に参加し、障害者スポーツを提供できるように努めて行きたいです。

玉野市障害者スポーツ推進プロジェクト

「障害者施設訪問型プログラム」 報告書

1. 趣旨

障害者施設等と連携し、日頃運動の機会が少ない障害者が気軽に楽しめる運動プログラムを訪問型で実施することで、スポーツへの関心を高めるとともに、日常の運動機会の増加やスポーツ施設等におけるプログラムの参加につなげるなど、スポーツを通じた健康づくり、社会参加につなげる。

2. 実施日

2018年3月5日（火） 13:00～14:00

3. 場所

すこやかセンター やまももホール

4. 内容

リズム体操、レクリエーションスポーツ体験

5. 参加者人数

16名

6. 講師紹介

玉野スポーツネットワーク JV スタッフ（青井、岡野、大西）

7. 「障害者施設訪問型プログラム」の様子

【スタッフ挨拶、自己紹介】

○担当スタッフの挨拶、自己紹介、プログラム説明などを行いました。

【リズム体操】



○音楽に合わせて簡単な体操や筋力トレーニングを行いました。前回のプログラムでは、上半身の動きが主だったので、今回は下半身の動きや筋力トレーニングを取り入れました。その場での足踏みや、ニーアップ（膝の上下運動）、レッグエクステンション（膝の曲げ伸ばし）などを行い、全身の動きを意識した内容としました。前回同様、簡単な頭を使った手遊びなども取り入れ、楽しそうに取り組まれていました。

【レクリエーションスポーツ体験】



○全員で円になり、ボールを使ったレクリエーションスポーツを行いました。今回は的とボールがマジックテープで貼りつく用具を使用し、中心の的や周りにおいてある的にボールを投げる・転がすなどして、どれだけ当てられるかというルールで行いました。ボール遊びはみなさん楽しみにされていた様子で、自分の投げたボールが的に当たると嬉しそうにされていました。

8. スタッフの感想、課題、次回に向けての取り組み

前回からの参加者も多かったため、プログラム序盤から参加者の緊張感もほぐれた状態で、楽しんでいただけました。一緒に楽しく体を動かしたり、声を出したりすることで日頃の運動不足解消やリフレッシュにつながったのではないかと思います。今回は、前回の反省点を踏まえ、リズム体操に筋力トレーニングを取り入れ、より楽しみながら全身運動が行える内容とし、レクリエーションスポーツでは、前回好評だったポッチャを参考にボール遊びを行いました。前回の雰囲気などから参加者のニーズを考え、実施したことで楽しんで頂けていたと思います。また、円形での運動プログラムでは、参加者のみなさんに分かりやすい説明ができるよう、2名のスタッフが中心の全員が見やすい位置で動きを伝えることでスムーズなプログラムとなりました。今後、同様のプログラム継続を希望される声も多くありましたが、今後はすこやかセンターだけでなく、様々な障害者の方とふれあえる機会をつくり、スポーツを通じた地域の活性化や障害者スポーツの普及につながる活動を遂行していく必要があると感じました。今回のプログラム実施をきっかけに自主的な運動機会が増え、体育施設のトレーニングジム利用、レクレセンターでのイベント参加などへの一歩へつながっていけばよいと思います。

2. 1年目の取組を終えた担当者の感想

○榊原智生 玉野市教育委員会社会教育課文化・スポーツ係長

本市で障害者スポーツ推進事業をスタートするに当たり、ゼロからまずは繋がりを作っていく事が大切との思いから、隣接市の支援学校や障害者スポーツセンター、県障害者スポーツ協会等と積極的な関係づくりを行いました。また、地域のスポーツ振興のコーディネーター役を担うスポーツ推進委員へシッティングバレーや車いすバスケットなどの実技体験等を通じて障害者スポーツへの理解と共生社会に対する機運の醸成にも努めました。その結果、市立体育施設の指定管理者スタッフ、スポーツ推進委員など本市のスポーツ振興に関わる市民の障害者および障害者スポーツに対する意識の変化が少しずつ見られるようになったこと、また、障害者理解を今後も継続することが重要と思ってもらえるようになったことが今年度1番の成果だと感じています。

次年度はスポーツ推進委員を中心に障害者スポーツ指導者の資格取得などを視野に入れた人材育成を行政、市立体育施設指定管理者、地域住民が一体的に行い、より多くの方々が本事業に参画できるような取り組みを進めていきたいと思っています。

○多田由美子 玉野市政策財政部総合政策課主幹

障害者福祉施設等への訪問型プログラムの試行について、まず、障害者と市立体育施設職員の打合せの時点から、とても良い関係性が築けたことがよかったと思われます。また、障害者にとって日常でスポーツを楽しむことは、身体の機能を高め、社会参加を無理なく出来る機会になり、家族や支援者にとってもコミュニケーションを図る一助となるなど、とても有益であると改めて感じました。次年度には、まだ取り組めていない施設などにも協力を得ながら、障害者種別や障害特性を理解し、障害者のニーズを聴き、スポーツを楽しむ環境づくりを市立体育施設の方と一緒に整えていきたいと思っています。市立体育施設が、市民のいろいろな方に活用され、スポーツを切り口にした「たまの版生涯活躍のまち」の地域共生社会の実現を目指したいと思っています。

○今井誠 玉野スポーツネットワークJV管理責任者

様々な障害者スポーツを通じて障害者と健常者が共に助け合い楽しむことの素晴らしさを感じました。障害を持たれている方への運動指導など、初めての経験するスタッフも多く最初は不安もありましたが、障害者だからと特別視す

るのではなく幅広く一緒に楽しめる内容や分かりやすい話し方、ルールなどを工夫することで同じように楽しむことができると学びました。

また、パラスポーツ選手のプレーを間近で見ることのできる貴重な機会に子どもから大人まで関心を持ち、今後の障害者スポーツに対する関心も高まったと思います。

障害者スポーツを通じて地域とのつながりの大切さを感じ、健常者と障害者が共に住みやすい地域づくりのためには必要不可欠だと思いました。そのためにも、今後も障害者スポーツを通じた地域のスポーツ推進に取り組みたいと思います。

3. 参考資料

たまの版 C C R sea 構想実現に向けた障害者スポーツ推進実行委員会 名簿

石川 雅史	玉野市教育委員会教育長
近藤 寿子	玉野市教育委員
岡本 隆	玉野市教育委員会教育次長
小崎 隆	玉野市健康福祉部長
多田由美子	玉野市政策財政部総合政策課主幹
白井 福美	玉野市スポーツ推進委員
今井 誠	玉野スポーツネットワーク J V 管理責任者
岡崎 靖子	玉野市地域子ども楽級コーディネーター
大田 卓男	玉野市サッカー協会副会長
五嶋 幹雄	玉野総合医療専門学校介護福祉学科長
丸本 明奈	宇野港フットサルコートマネージャー

(実行委員会の開催)

平成 30 年 8 月 1 日 試行プログラム基本方針等の協議 等

平成 31 年 2 月 11 日 試行プログラムの取組の評価・事業のまとめ 等

おわりに

本市で取り組んでいる若者から高齢者、障害者、移住者など全ての市民が活躍でき、共生社会の実現を目指す「生涯活躍のまち構想（たまの版C C R sea 構想）」の具体化の1つとして、本報告書で紹介させていただいたような障害者スポーツの取組を推進することにより、本市の共生社会実現に向けた取組が一歩進み始めたことに関し、御協力いただいた関係者の皆様に大変感謝しています。

今回の取組の中でポイントだったのは、市立体育施設が障害者スポーツの拠点機能を担えるよう、障害福祉部局をはじめ、市内外の様々なネットワークとつながることができたことだと思います。この分野は、行政的な観点から見れば分野融合的な課題であり、市教委のスポーツ担当部局だけで担えるものではなく、いかに多様な分野の方とつながっていくことができるかが重要だと感じています。

本市の取組は、障害者スポーツ専用施設などを持つことができないような、人口数万人の自治体にも応用可能な内容だと思っています。各自治体でネットワークの拠点をどこにするかは、自治体それぞれだと思いますが、いずれにせよ、多分野の方とつながっていくことができる障害者スポーツのネットワークの拠点を持つことが成功への近道だと思います。

本市も引き続き、共生社会の実現に向けて、障害者スポーツの事業に取り組んでいきたいと思っています。

玉野市教育委員会 教育長 石川雅史